

韓国の教科書にみる「自国史」の扱い方

馬居 政幸

一 初等学校社会科の韓国史から
教科書問題を代表に、韓国の教科書については、近代日本の侵略とかかわって、中・高等学校の国史が紹介されることが多い。私もかつて本誌でメディア論の観点から、太平洋戦争に関する日韓の中・高校教科書の比較を行った。だが、本稿では自国史を体系的に始めて学ぶ初等学校（韓国の小学校、九五年度までは国民学校）六年の教科書「社会科6-1」を用いたい。

まず最初に取り上げたいのが目次が記された見開き2頁、次頁の図1である。絵の下のキャプションに、「通信使行列図の一部分・1711年、朝鮮の正使を乗せた駕籠が日本人の使令、軍令の護衛を受けながら日本の首都に向かっている」と記されている。

韓国初等学校の教育課程は、日本より独立（光復）後、日本と同様に米国（韓国では美国）の強い影響力のもとで改革されたこともあって、日本とは

ほぼ同じ。また、韓国の子供が自国の歴史を体系的に教わるのも日本と同様に初等学校六年の社会科である。

ただし、教科書は教育部（韓国文部省）が発行する一冊のみ。その目次の背景に用いられたのが、江戸時代の日本を訪れた朝鮮通信使の絵である。日本の武士に護衛され、堂々と駕籠に乗って最新の文化を日本に伝え（教え）る誇り高き先進国、これが国民が最初に学ぶ自国史教科書の扉に描かれた大韓民国の自画像になる。

二 民族の独立と誇りへの戦い
だが後進国（中国との関係では弟）の日本に、二度に渡って国土を侵略されたのも事実。そのことを含め、子供への自国史教育の全体像を把握するために作成したのが資料1である。

図1のハンゲル文字の部分、資料1の大項目（Ⅰ～Ⅲ）と中項目（1～3）。それに本文から書き抜いた小項目（1）（4）を加えたもの。

どこから、どのようにやってきたのか、そして、どこへ行くとしていたのかを学ぶことである。日本社会を時間軸を中心に切り裂きながら、自国のあゆみを明らかにする学習である。

小学校では人物を中心とした歴史学習が、中学校と高校では通史の学習が行われる。ここでいう通史とは、原始から現代までの歴史を、時間軸を中心に、政治・経済・社会・文化のような諸分野にわたって総合的にとらえ、叙述するものである。

2 中学校での歴史学習の実態
中学校での歴史学習では、一年生から二年生のおわりごろまでに九回ほどの試験が実施される。試験ごとの出題範囲は、一般的にはその時期に学習した内容になる。

その結果、試験で問われるのは、時間軸を中心とした時代の変化よ

りも、その時代ごとの政治・経済・社会・文化・国際関係の内容や相互のつながりが中心になる。また、時代といっても、教科書の時代区分として使用されている古代・中世・近世ではなく、飛鳥・奈良・平安という細かな時代区分になっており、古代社会や中世社会としての認識が得にくく、その変化が理解しにくい。

中学校での歴史学習が、通史を学ぶことをねらいにしながら、現実には、細かな時代区分ごとの、それも政治・経済・社会・文化・国際関係といった分野の学習に切り込まれている。

これでは、自国のあゆみがみえてくる歴史学習にはなりえない。

中学校での歴史教育を自国のあゆみのみえる通史学習とするため、歴史学習における生徒の認識の実態を考慮したものに改善しなければ

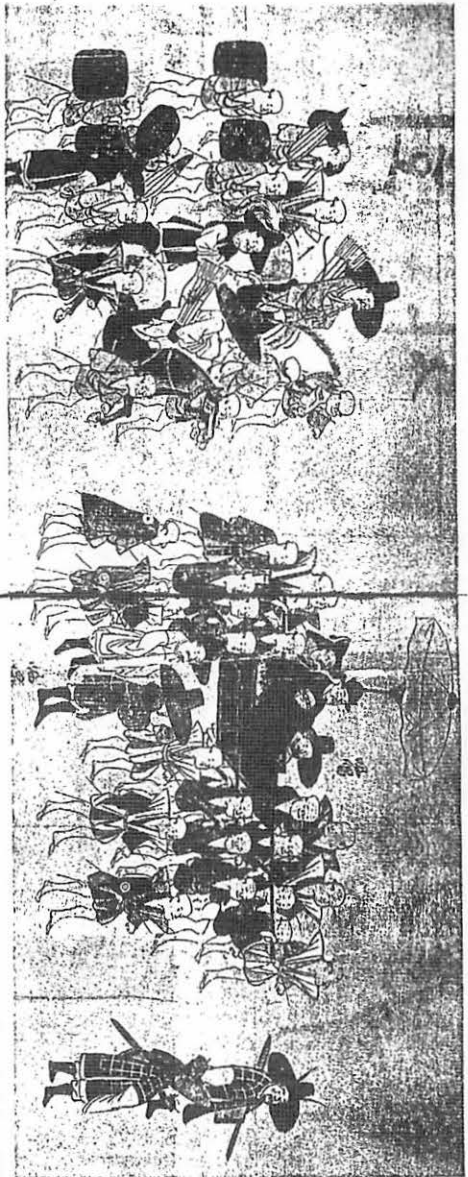
ばならない。

3 「分野別」歴史学習の提案
中学校での、政治史・経済史・社会史・文化史・国際関係史といった「分野別」歴史学習を提案する。

「分野別」歴史学習とは、日本の社会がどのように変化してきたのかを、各分野ごと、時代による変遷を繰り返して学習するものである。

通史に必要な理解は、最終的には時間軸による日本社会の変化である。通史を構成する分野ごと、時間軸を何度もたどることによって、その理解を深めることが可能になる。

中学校段階での、通史に対する分析的な「分野別」歴史学習のうねにたつて、はじめて高校での総合的な通史理解が可能になる。



차 례

1. 민족 국가로의 발전7
 (1) 훌륭한 지도자들8
 (2) 이 땅을 지켜 온 거제27
 (3) 우리 거제의 해외 활동47
 2. 근대화의 노력63
 (1) 신학 운동64

<통신사 평壤道の 한 부분: 1711년(숙종 37년) 조선 정사 조벽의 을 떠온 기마가 일본인 사행, 군관 등의 호위를 받으며 일본의 수도로 향하고 있다.>

(2) 달라지는 나라 모습83
 (3) 부권의 수호105
 3. 국민 생활과 정치121
 (1) 우리 나라 민주주의의 발전122
 (2) 민주 국가의 정치 생활138
 (3) 오늘날의 민주 정치 제도158

資料 1 「社会教科書 6年—1」の構成 (大・中・小項目の翻訳)

- I. 民族国家への発展
 1. 立派な指導者たち
 (1) 壇君王儉 (2) 金庚信 (○) (3) 崔承老 (4) 世宗大王と黄喜
 2. 国土を守ってきた民族
 (1) 薩水(清泉江)の大勝 (2) 三別抄 (3) 閑山島の大勝 (▲) (4) 斥和碑
 3. わが民族の海外活動
 (1) 曇徴と王仁 (◎) (2) 新羅坊 (3) 碧瀾渡 (4) 朝鮮通信使 (◎)
 II. 近代化の努力
 1. 実学運動 (△)
 (1) 実学者朴址源 (2) 春香伝 (3) 田植え (△) (4) 千里眼と起重機
 2. 変わってきた国の姿
 (1) 門戸開放 (△) (2) 電話と汽車 (3) 独立協会 (▲) (4) 開化運動
 3. 国権の守護 (▲)
 (1) 朝鮮總督府 (▲) (2) 3・1運動 (▲) (3) 青山里の大勝 (▲)
 III. 国民生活と政治
 1. わが国民主義の発展
 (1) 大韓民国と憲法 (2) 6・25と民主政治 (3) 經濟發展と民主主義
 2. 民主国家の政治生活
 (1) 国民参加の政治 (2) 国民の要求と政治 (3) 民主市民の責任と義務
 3. 現在の民主政治制度
 (1) 国会 (2) 行政府 (3) 法院 (4) 地方自治制度

また、日本との関係が述べられている項目に下線、その内容が朝鮮通信使のように、韓国の日本への影響が中心である場合は(◎)、中心ではないが

述べられている項目に(○)、逆に日本の侵略中心の小項目に(▲)、一部そのような項目に(△)を付した。この下線と記号

が付いた項目の量から、韓国の自国史は日本との関係抜きには語れないことが理解できよう。

資料 2 「I. 民族国家への発展 2. 国土を守ってきた民族」の小項目の学習課題と研究課題

- (1) 薩水(清泉江)の大勝
 「高句麗は隋と唐の侵略をどのように退けたかについて理解しよう」
 「研究 新羅と百濟は外敵の侵入をどのように退けたかについて調べてみよう」
 (2) 三別抄
 「高麗時代には、北方民族の侵入をどのように防いだのかについて理解しよう」
 「研究 高麗が宋に近づき、契丹族と女真族を遠ざけたわけについて理解しよう」
 「研究 三別抄の抗戦から私たちが何を学ぶべきかについて討議してみよう」
 (3) 閑山島の大勝 (▲)
 「壬辰倭乱の時、私たちの祖先はどのように日本の軍隊を退け、国を守ったかについて理解しよう」
 「研究 李舜将軍が外敵を退けた時、使ったすばらしい戦術について調べて発表してみよう」
 「研究 壬辰倭乱の時、勇敢に外敵を退けた義兵たちの話を調べて発表してみよう」
 (4) 斥和碑
 「朝鮮後期に西洋の勢力がおしよせてきた。その時、わが祖先はどのように対処したかについて理解しよう」
 「研究 興宣大院君が西洋の勢力を受入れなかったことは良かったのか悪かったのかについて討議してみよう」
 「研究 興宣大院君が退いた後、世界の国々に門戸を開いたわけについて理解しよう」

資料4 「II. 近代化の努力 3. 国権の守護」の小項目の学習課題と研究課題

- (1)朝鮮総督府
「日帝の支配の下でわが民族はどんな苦難を味わったかについて理解しよう」
〔研究 わが国が日本に主権を奪われるようになったわけについて討議してみよう〕
〔研究 日本が35年の間、わが民族を苦しめた話を集め、発表してみよう〕
- (2)3・1運動
「3・1運動はどのようにして起こり、わが民族は独立のためにどのように戦ったかについて理解しよう」
〔研究 3・1運動を起こした祖先たちから我々が受け継がなければならない精神に関して討議してみよう〕
〔研究 いろいろな参考書を使い、臨時政府について調べてみよう（臨時政府が置かれた時と場所／臨時政府が独立をとりもどすためにしたこと／国民が臨時政府を助けるためにしたこと）〕
- (3)青山里の大勝
「独立運動の活動について理解しよう」
〔研究 満州や沿海州一帯が独立軍の根拠地になっていたわけについて理解しよう〕
〔研究 学者、宗教指導者、教師たちは、日本に対しどのような独立運動をしたのかについて理解しよう〕

力」の「3 国権の守護をまとめたもの。個々の項目の内

(位置)を解説できない。

資料4は「II 近代化の努

資料2と4（紙幅の制約のため日本との関係が深い項目のみ示す）。

まず資料2。侵略する外敵からいかに国を守るかが自国史教育の要である

ことを示す内容。その中心に豊臣軍に勝利した「(3)閑山島の大勝」がある。このことを反日教育と短絡して解釈してはならない。資料3が示す「(1)豊微と王仁」や「(4)朝鮮通信使」と関連づけて理解することが重要。侵略国として位置づけながらも、古代には最新文化の漢字や仏教を伝え、秀吉軍の侵略後の近世においても、最新文化とともに通信使を派遣した、という自国史教育の中の日本の位置への理解なしには、韓国の日本に対するアンビバレンツな認識

資料3 「I. 民族国家への発展 3. わが民族の海外活動」の小項目の学習課題と研究課題

- (1)豊微と王仁 (◎)
「三国時代に先祖たちが日本に渡り活動したようすについて理解しよう」
〔研究 次の写真を見て、わが国と日本の文化はどんな関係を持っているかを話してみよう（東京近郊の高麗神社、韓国と日本の半跏思惟像の写真）〕
- (2)新羅坊
「新羅坊はどのようにして生まれたのか、新羅人の海外進出のようすはどのようなものであったのかについて理解しよう」
〔研究 新羅が唐から受け入れた文化にはどんなものがあるかについて理解しよう〕
〔研究 張保卓の活動をもっとくわしく調べてみよう〕
- (3)碧瀾渡
「高麗人たちは他の国々とのように交流していたかについて理解しよう」
〔研究 近來、新安の沖合で発見された宝物を高麗と関連させて話してみよう〕
〔研究 高麗時代、中国に渡り、その名を轟かせた学者や僧侶の活動について調べてみよう〕
- (4)朝鮮通信使 (◎)
「朝鮮通信使は日本でどのような役割を果たし、日本は彼らをどんな対応で迎えたかについて理解しよう」
〔研究 わが国と日本の関係について右の事実を中心に簡単に理解しよう（わが国と日本が最初に交流始めた時、わが国が日本に伝えた文化／わが国が日本に施した助け／日本がわが国に助けを差し伸べたことと害を与えたこと）〕

また、日本のみでなく、「I 民族国家の発展」の「2 国土を守ってきいた民族」と「3 わが民族の海外活動」の小項目の名称から、自国史教育の主要部分が、半島国家として、他国（民族）の侵略から自国（民族）を守り、独立した民族として国家を形成し続ける努力（戦い）の過程を、子供たちに伝えることを目的に構成されていることも読み取れよう。このことを端的に示すのが、大項目「I」の扉の頁に記載された次の文である。

「我々の祖先は、長い歲月の間、満州と韓半島で様々な部族国家を築き、散らばって住んでいた。そして、高句麗、百濟、新羅などの新しい国を形成し、統一新羅の時代にひとつの民族国家の形成をなし遂げた。その後、我が民族は統一された単一民族国家を築き、文化を発達させてきた。また、祖先は他の国の侵略を退け、何者にも屈しない国を保ってきた。我々は、このような祖先の意思を尊び、国をすこやかに保ちながら、我が民族の力を一つに凝縮させ、世界に光輝く歴史を創造していけるように、たゆまない努力を重ねなければならない。」

一種の建国神話である「I-1(1)壇君王儉」を代表に、韓国教科書にみられる実証性をこえた自国（民族）中心主義の背景に、常に侵略の脅威にさらされてきた半島国家としての苦闘の歴史があることを忘れてはならない。

三 アンビバレンツな世界

本文の全体像理解のため、各小項目の冒頭にある「学習課題」と末尾の「研究課題」を抜き出し整理したのが

容理解に止まらず、自国の近代史を日本への抵抗運動としてしか描けない韓国の重みと痛みを伴ったトータルな感得の重要性を強調したい。逆に、この韓国の自国史を自己の歴史観の証明として利用することは慎むべきと考える。また日韓共通教科書作成の主張にも慎重でありたい。理由は既に韓国は他国から侵略され続けた半島の小国ではないこと。国民一人当たりのGNPが一万ドルを超え、世界で十一番目の大国。他方、米軍とともにベトナム戦争に参戦した韓国は、ベトナムにとつて侵略国の一つ。韓国が望む先進国入り（世界化）を果たすための課題は、日本と同様に単一民族の自国史中心教育の再構成にあることも指摘しておきたい。

（☆教科書の翻訳は福岡市立原北小学校森宏介教諭によるもの。また参考資料の翻訳を静岡大学院修士課程に在学中の金敬善さんにお願した。お二人に心から感謝します）

（静岡大学教育学部教授）



彼方小学校 窪満廣学級

彼方小学校 山本豊学級

彼方小学校 中嶋潤一学級

彼方小学校 初野富博学級

古市小学校3年 コミュニティ・ゲスト

特集 社会科で「自国史」をどう教えるか

●あの頃・あの時・そしていま思うこと——先達が語る自国史教育の今昔
歴史教育の転換期に生きて……高山 昌之……六
自国史教育 戦中よりも今の偏向の方がより恐ろしい……自賀田八郎……六
教科名「国史」は消え「国語」はなぜ残ったのか……山口 康助……九
——「日本史」と「日本語」の謎を追う——

●在外日本人となつて見えてきた「自国史」教育の問題点
在外日本人として見えてきた歪められた日本の戦後史……黒崎 彪……九
他国民の視点を重ね合わせて考える……田淵五十生……一〇
書評 小西正雄著「戦後民主主義と教育」……伊東 亮三……一〇五
吉田高志編著「保護者参観授業を盛り上げる社会科っておきのネタ」……新保 元康……一〇五

連載講座
◎歴史の用語を洗い直す ⑤ 江間 史明……一〇六
盧溝橋事件…… ⑤ 星村 平和……一〇七
◎世界史の窓から社会科を考える ⑤ 原口 弘之……一一三
一 国中心の歴史を超える (1)…… ⑤ 佐長 健司……一一三
ティベートができる子どもを育てる ⑤ 俊夫……一二八
論題づくりの方法を知る…… ⑤ 北 俊夫……一二八
実践に学ぶ「社会科改革の方向」 ⑤ 北 俊夫……一二八
地図に関する指導の充実…… ⑤ 北 俊夫……一二八

中学校社会科の新テストの作問技術——テスト問題を評価・添削する 17
文部省「ペーパーテスト調査」の問題例 1——第1学年——澁澤 文隆……一二五
▼わが教室の「社会科研究最前線」④ 三重大学の巻…… 山根 栄次……一三三
▼わが県の情報「ここに」の授業あり④ 大塚園の巻…… 北村 久夫……一三四
●研究案内 「モノ」サミットIN東京・開発教育全国研究会・「提案する社会科」フォーラムIN広島・有田先生と勉強する会・生活科教育全国大会・静岡大学附属浜松中学校・熊本大学附属中学校(七)／習志野市谷津小学校・唐津市久里小学校・長野県三郷小学校(九)／香川大学附属高松小学校(一〇〇)

日本人の自国史観教育——再検討の課題を問われたら…… 九
「没落」とふんばりの歴史に学ぼう——稲垣真澄／複眼的思考の徹底を——滝沢和彦／歴史はすべてわたし自身の歴史である——石川正一／ナショナル・アイデンティティの再検討——森 才三／中学校での自国のあゆみは「分野別」歴史学習で——館 潤一

■教科書にみる「自国史」の扱い方——他国との関わり記述を中心に
中国の教科書にみる「自国史」の扱い方……馬居 政幸……一五
アメリカの教科書にみる「自国史」の扱い方……市川 暁敏……一六
EUの教科書にみる「自国史」の扱い方……中村 哲……一七
星村 平和……一八

歴史イタリシの「自国史」を再検討する
縄文・弥生の時代像・見直し点はないか……有田 和正……一七
奈良・平安の時代像・見直し点はないか……占部 賢志……一八
鎌倉の時代像・見直し点はないか……渡辺 憲二……一九
室町・戦国の時代像・見直し点はないか……友田 靖雄……二〇
安土桃山の時代像・見直し点はないか……林原 和彦……二一
江戸の時代像・見直し点はないか……西尾 一……二二
明治の時代像・見直し点はないか……秋山 正道……二三
大正の時代像・見直し点はないか……上原 卓……二四
昭和の時代像・見直し点はないか……斎藤 武夫……二五
戦後の時代像・見直し点はないか……宮崎 俊哉……二六

●新発見でゆらいだ私の自国史像——最近のトピックを追って
もう半分の物語——東南アジアから見たもう一つの日本……安藤 豊……二七
文明への不信……本間 昇……二八
歴史は葛藤しているものなのだ！……本宮 武憲……二九
「教科書が教えない歴史」の捕虜収容所物語……小笠原幹夫……三〇
飯田 順之……三一
51年前「マリコは重病」…… 飯田 順之……三一

表紙写真・表3 1枚の写真から見てくること—表紙は語る=小西正雄/グラビア 社会科授業に使えるフォトクイズ=藤井英之/扉 女子高校生の社会バロディ辞典=深谷純一/表3下 今月の教材単元一覧/表4 授業に使える「生活文化」図鑑=藤村裕一 目次写真=北村久夫(134ページに紹介があります)

社会科教育 8

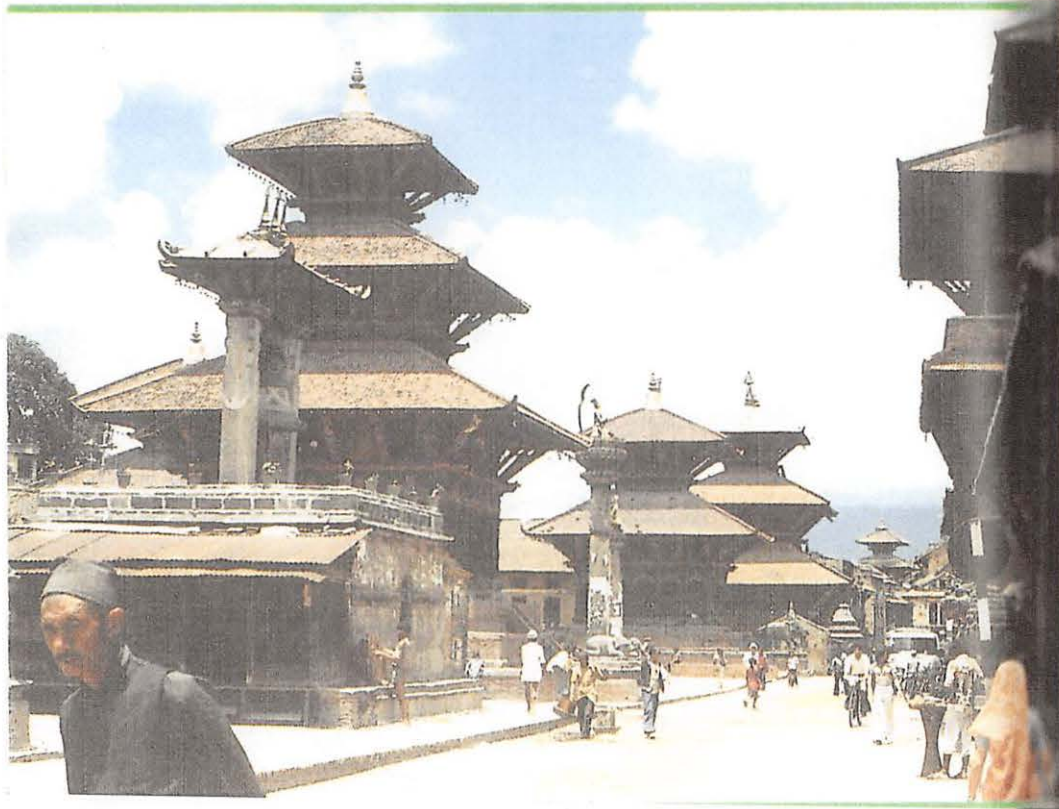
1996年8月1日発行(毎月1回1日発行)33巻11号 昭和41年10月7日第三種郵便物認可

社会科で「自国史」をどう教えるか

- ▶ 日本人の自国史観教育—再検討の課題を問われたら——稲垣真澄・滝沢和彦他
- ▶ 教科書にみる「自国史」の扱い方—他国との関わり記述を中心に——馬居政幸他
- ▶ 歴史イメージの“常識”を再検討する——有田和正・占部賢志・渡辺憲二他
- ▶ “新発見”でゆらいた私の自国史像—最近のトピックを追って——安藤豊他
- ▶ 先達が語る自国史教育の今昔—高山昌之・目賀田八郎
- ▶ 教科名「国史」は消え「国語」はなぜ残ったのか——山口康助
- ▶ “在外日本人”となって見えてきた“自国史”教育の問題点——黒崎彪他

連載講座 江間史明・星村平和・佐長健司・北俊夫・澁澤文隆他

明治



1996年8月1日発行(毎月1回1日発行)33巻11号
昭和41年10月7日第三種郵便物認可

授業に使える「生活文化」図鑑 5

社会を映す「生活文化」・東西文化圏編 ①

札幌市中央区南21西5=幌南小学校 藤村 裕一



弥生文化圏(西文化圏)のうどん屋



縄文文化圏(東文化圏)のそば屋

運輸・通信・文化を分かち東・西文化圏

運輸・通信の学習をしていくと、日本中はもとより世界中と人・物・情報が早く確実に行き来できる素晴らしい人々の工夫と努力が見えてくる。県境も国境もない世界。

しかし、「現状は？」というところがそう単純ではない。日本は、新潟・長野・静岡三県の西端をつなげた線で、東西二つの生活圏に分かれているのである。電話の通話圏は、東京を中心とした東日本通話圏と大阪を中心とした西日本通話圏に分かれている。これは、就職・進学といった人の移動についても同様である。この二つの生活圏は、文化的差異をもつ文化圏でもある。その一例が、西の「うどん文化」であり東の「そば文化」である。電話帳で福岡と札幌のうどん屋：そば屋の比率を比べてみると、福岡(4:1)、札幌(1:99)とはっきり違う。西日本では良質の小麦を産し、東日本では寒さに強く荒地でも育つそば産地が多いことと、薄口好みと濃口好みの違いなどがその背景にある。実は、この西文化圏と東文化圏の起源は、常緑広葉樹林が広がり木の実が少ないために稲作が必要であった弥生文化圏と、落葉広葉樹林が広がり木の実が多くサケという貯蔵食があったため必ずしも稲作を必要としない縄文文化圏にまで遡る。国際理解の前に、異文化を理解し尊重する芽を身近な二つの文化圏の相互理解から育てたいものである。次回以降、東西生活文化の違いを紹介する。

定価 620円

(本体 602円)

発行所=明治図書出版株式会社
東京都豊島区南大塚2-39-5
郵便番号170
電話番号03-5151318

Printed in Japan

